

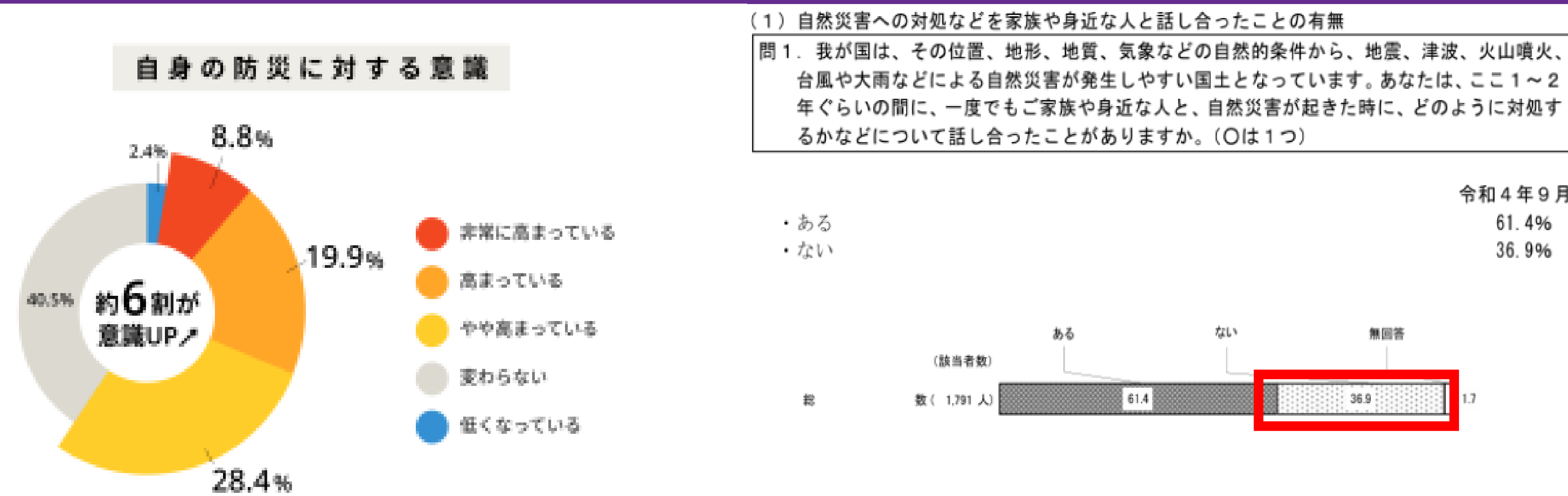
## コミュニケーションロボットを用いた防災に関する会話の活性化

石倉惇杜 爰川知宏

## 1. はじめに

近年, 震度 7 を超える地震が度々発生しており, 2024 年 8 月 8 日には南海トラフ地震臨時情報が発令された. このような状況により, 国民の地震に対する危機意識が一層高まっている. こうした背景を受け, 本研究では「フェーズフリー」という概念を基盤に, 平常時には日常的な会話相手として機能し, 災害発生時には平時に蓄積した防災知識を活用できるコミュニケーションロボットの開発を目指す

## 2. 課題

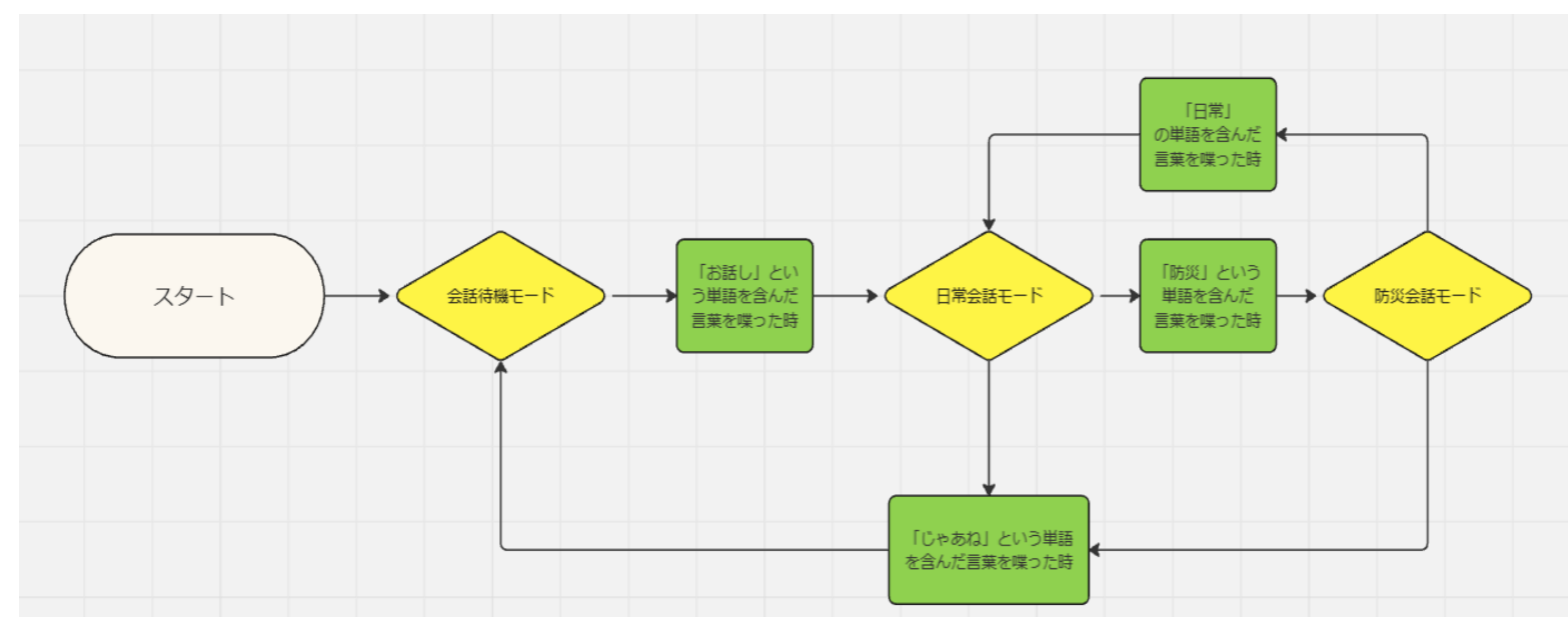
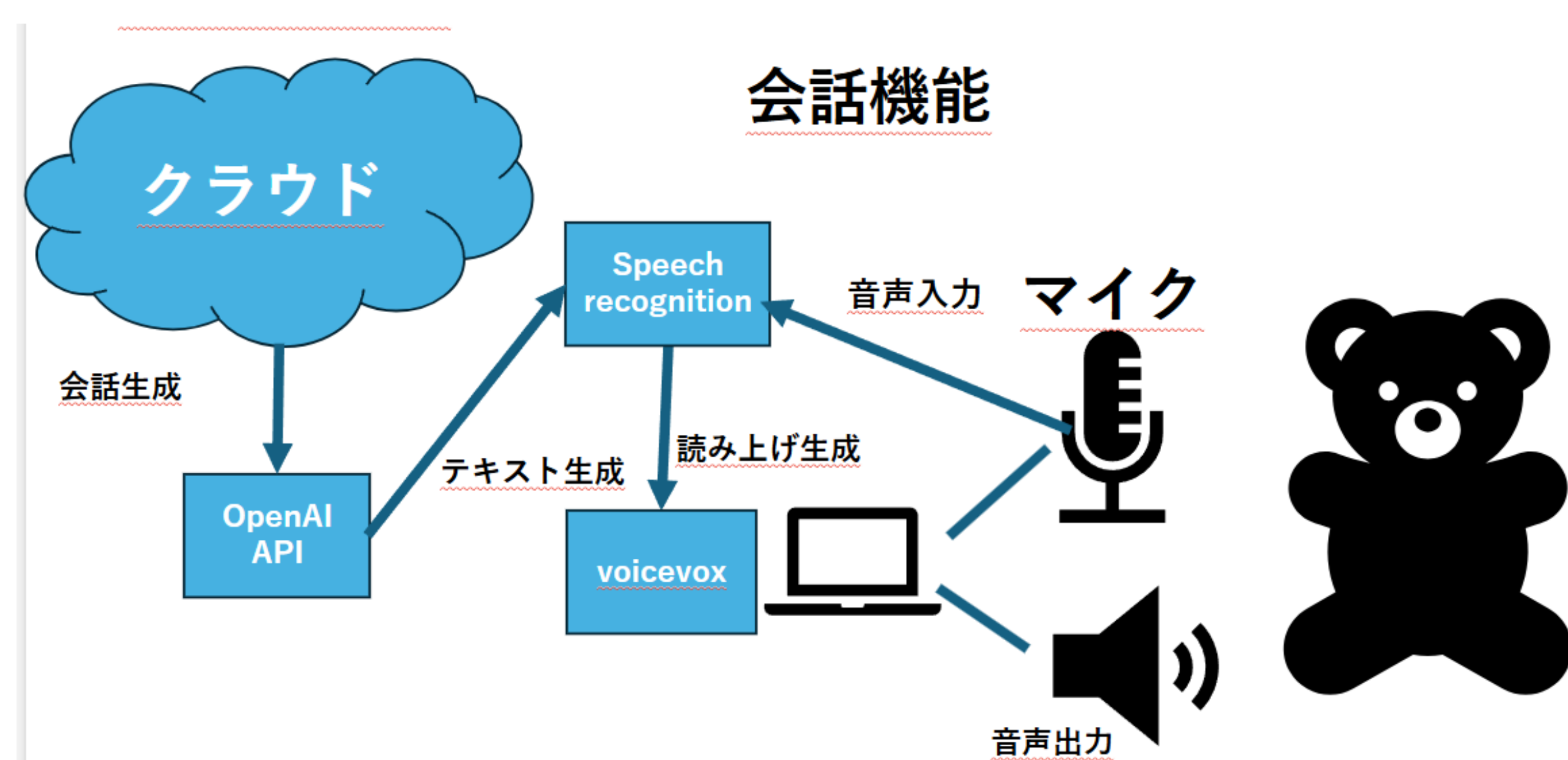


防災意識が高まっている一方 ...

約四割の方が**防災の会話をしていない**

今回はこの課題を解決するためにコミュニケーションロボットを用いて防災の会話を活性化させる

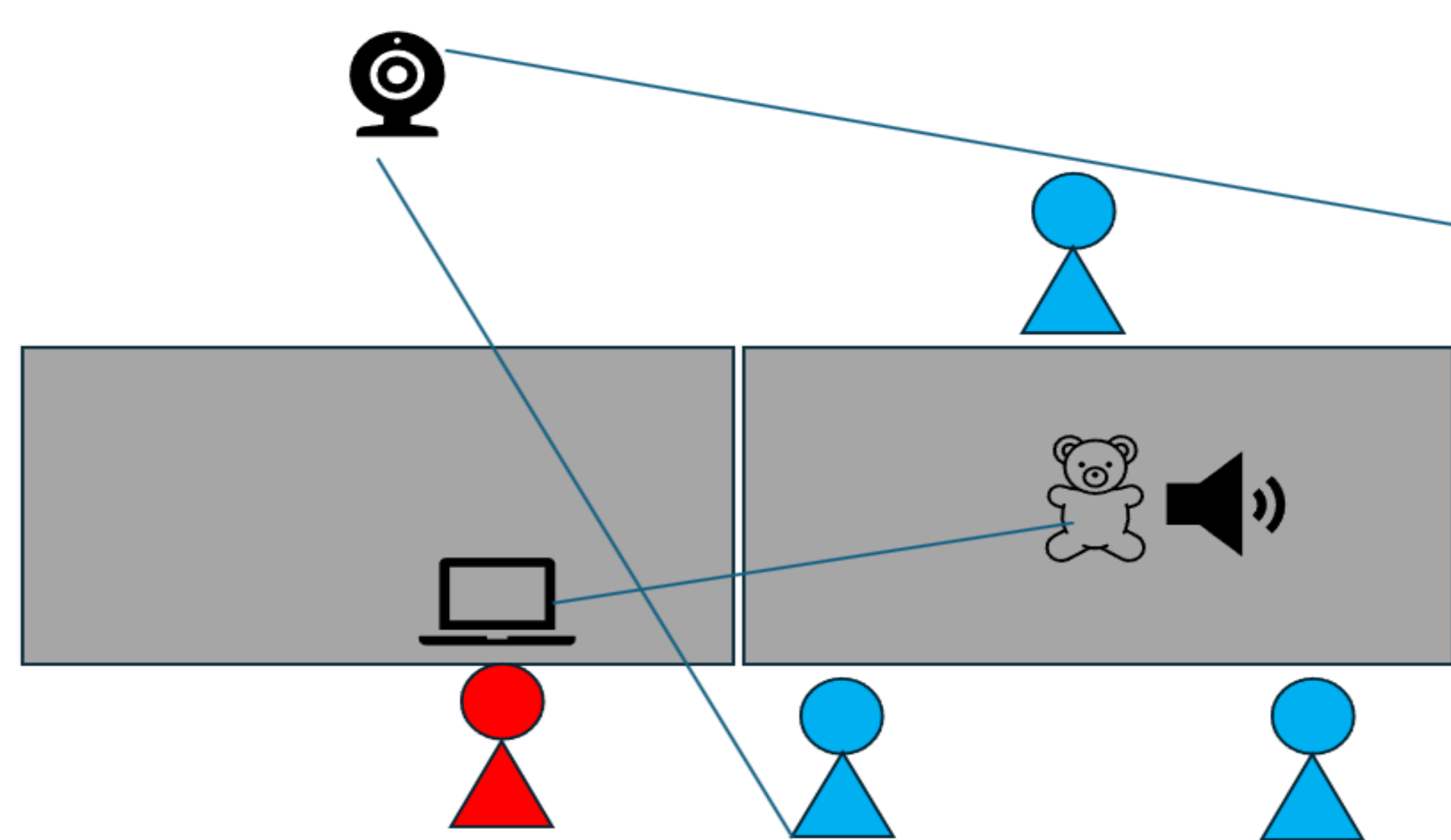
## 3. システム概要・構成



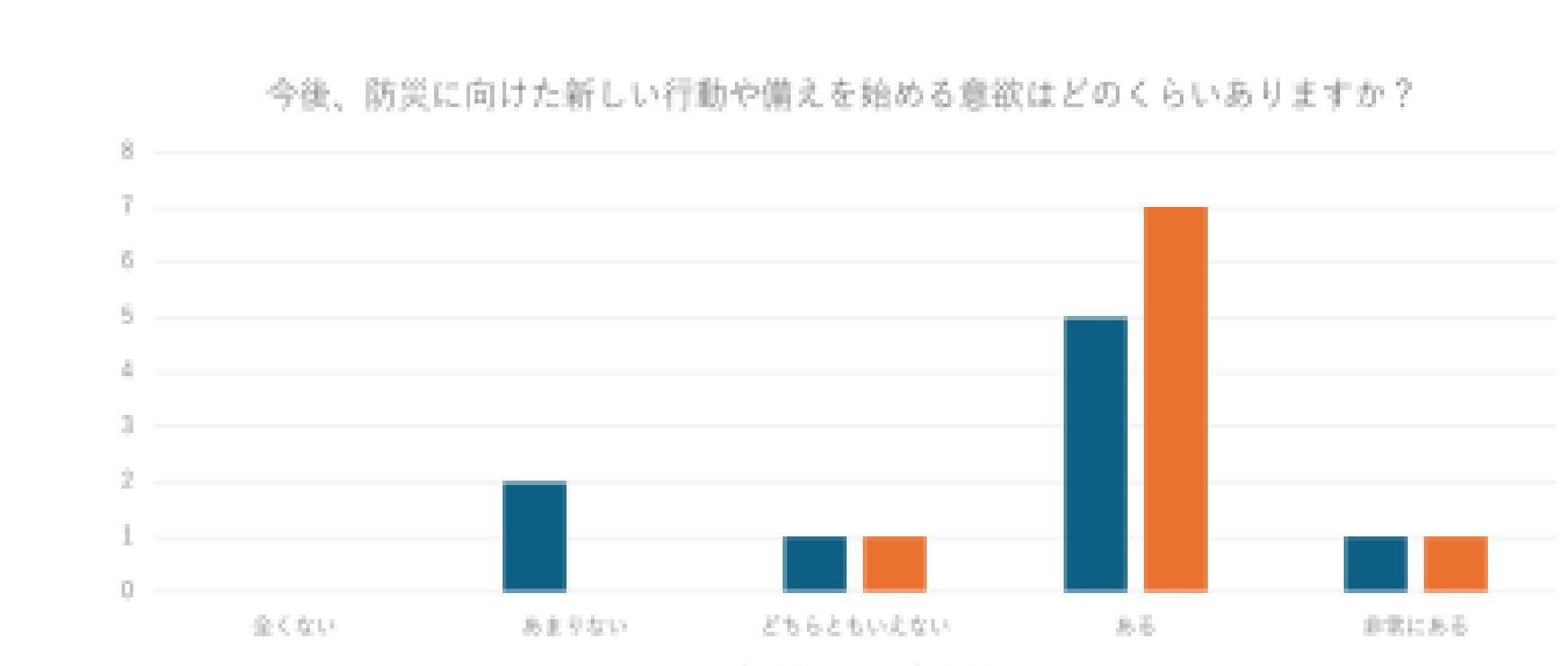
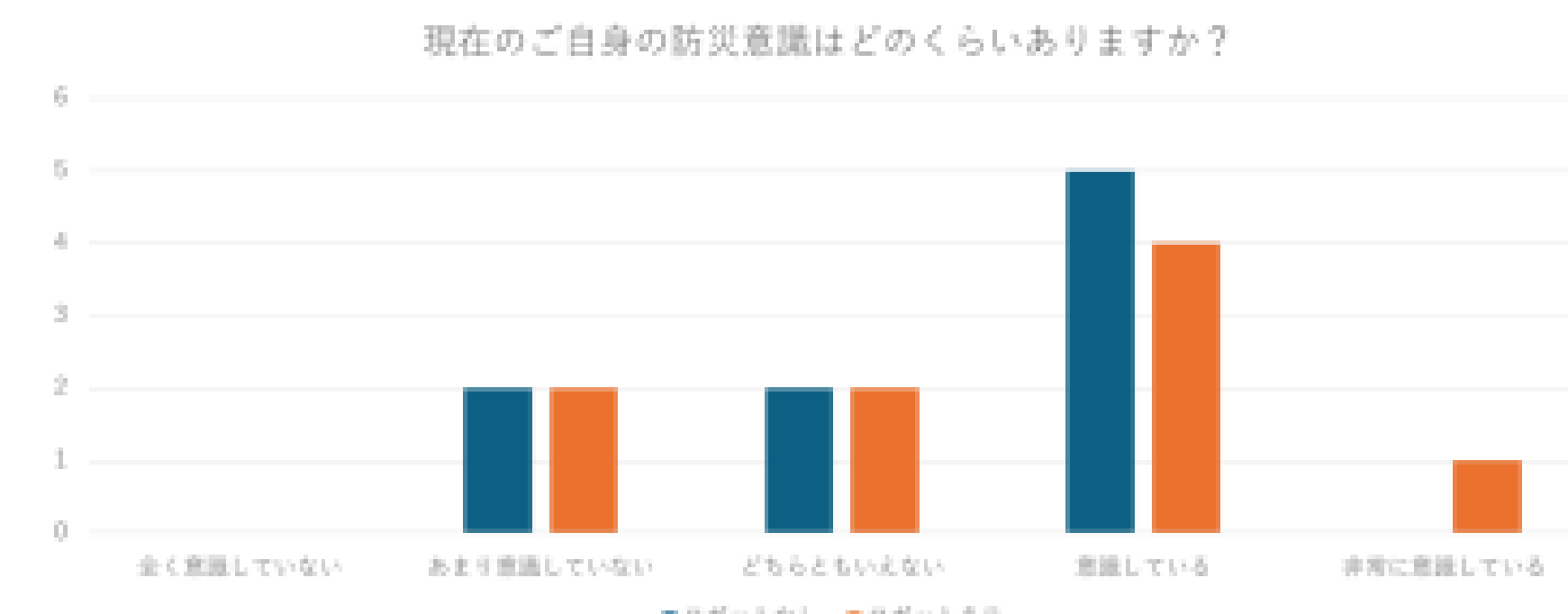
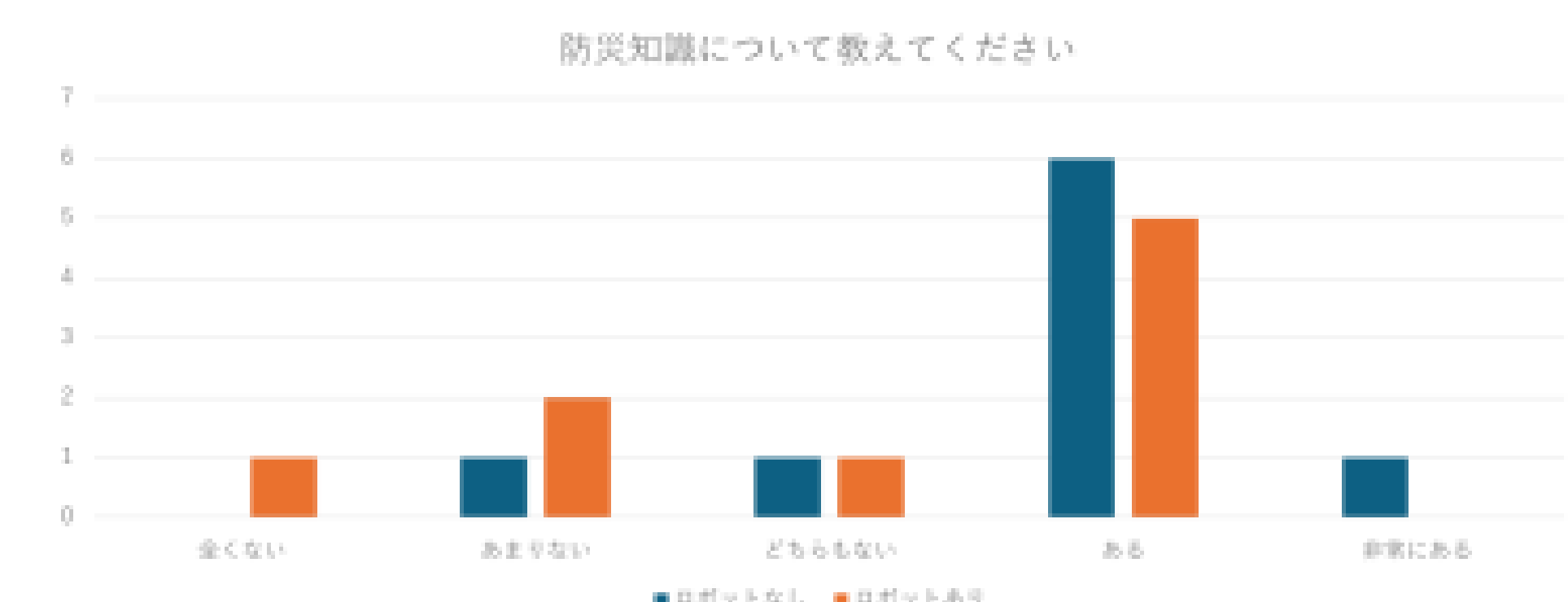
※今回はコミュニケーションロボットのサンプルとしてぬいぐるみを使用

コミュニケーションロボットの会話のフローチャート

## 4. 実験方法・結果



	防災関連の会話の回数	防災会話の会話時間
1グループ(一回目)		0 0分0秒
1グループ(二回目)		4 4分31秒
2グループ(一回目)		0 0分0秒
2グループ(二回目)		1 1分58秒
3グループ(一回目)		0 0分0秒
3グループ(二回目)		5 3分52秒



ビデオカメラを左上に配置し, 被験者全体が写るようにする. 被験者はテーブルをはさんで 3 人で会話していただく. 会話の内容は特に縛りはなく, 自由に会話していただく. 会話をしている際には自分は離れて見守る. 1 回目は何もない状態で 10 分間日常会話をしていただき, アンケートを取る. 二回目はコミュニケーションロボットを中心に置き, コミュニケーションロボットの一連の流れを一度試していただく. 一連の流れが終わった後は 1 回目と同じようにアンケートを同じように取る.

## 5. まとめ

本研究では, コミュニケーションロボットを活用して防災に関する会話の活性化を促進することを提案し, そのプロトタイプの実装を行った. 評価実験においては, 顔見知りの友人 3 人という条件で行った結果, 被験者数が少数にとどまったため, 十分なデータの収集には至らなかったが, コミュニケーションロボットが防災会話の促進に寄与する可能性が示唆された.